

スポーツⅠ(卓球)ルーブリック

到達目標	評価規準	評価基準				
		5	4	3	2	1
卓球競技のルールや技術用語を話すことができる。	競技者同士がルールや技術用語を教え合い学び合いながら約束事を尊重し合ったリコミュニケーション力を高めることができる。	ルールを完全にマスターしてコミュニケーションを取りながら教えることができる。  ①簡単なロング打ちやショート打ちで100本以上返球することができる。 ②ツツキやスマッシュなどの高度な技術にも関心を持ちかなり使うことができる。	ルールをある程度までマスターしている。  ①簡単なロング打ちやショート打ちで70本以上返球することができる。 ②ツツキやスマッシュなどの高度な技術にも関心を持ちある程度まで使うことができる。	ルールを最低限マスターしている。  ①簡単なロング打ちやショート打ちで50本以上返球することができる。 ②ツツキやスマッシュなどの高度な技術にも関心を持ち挑戦しようとしている。	ルールをほとんどマスターしていない。  ①簡単なロング打ちやショート打ちで20本前後返球することができる。 ②ツツキやスマッシュなどの高度な技術にも関心を持っているがやろうとしない。	ルールを全くマスターしていない。  ①簡単なロング打ちやショート打ちで全く返球することができない。 ②ツツキやスマッシュなどの高度な技術にも関心を持っていない。
卓球競技で使う身体の使い方ができる。	卓球競技独自の身体の使い方を学びながら無理なく健康促進に役立つあり方を体験することができる。	①体重移動ができる。 ②前腕の使い方が正しくできる。 ③指の使い方が正しくできる。	①体重移動がある程度できる。 ②前腕の使い方がある程度正しくできる。 ③指の使い方がある程度正しくできる。	①最低限の体重移動ができる。 ②最低限の前腕の使い方ができる。 ③最低限の指の使い方ができる。	①体重移動がうまくできない。 ②前腕の使い方が正しくできない。 ③指の使い方が正しくできない。	①体重移動の理論を理解できない。 ②前腕の使い方の理論が理解できない。 ③指の使い方の理論が理解できない。

到達目標	評価規準	評価基準				
		5	4	3	2	1
試合を通してスポーツの真の楽しさを理解できる。	お互いに声をかけ合ったり、不足する技術を補い合ったりしながら勝利する喜びと高い充実感を味わうことができる。	最後まであきらめないうちに勝利に導くために高め合う努力をすることができる。	ある程度までは勝利に導くための努力をすることができる。	勝利したいという意欲を持っている。	勝利に導くための努力をあまりしない。	勝利に導くための意欲を持っていない。
生涯スポーツとしての卓球競技の魅力を理解する。	健康者や障害者の枠を超えて助け合いや問題解決能力を高めながら生涯スポーツとしての卓球競技の魅力を感じることができる。	障害者に対して易しく教えるための思いやりや社会的な指導力を充分に持っている。	障害者に対して易しく教えるための思いやりや社会的な指導力を持っている。	障害者に対して易しく教えるための思いやりを持っている。	障害者に対して易しく教えるための思いやりはあまり持っていない。	障害者に対して易しく教えるための配慮が欠けている。
卓球大会などの組織運営を行うことができる。	大会などにおいてプログラム作成や競技の進行などの運営を通して総合型地域スポーツへの理解を深めることができる。	プログラムを完璧に作成したり自主的に進行係などを引き受けることができる。	頼まれた仕事についてはある程度まで成し遂げることができる。	最低限の係などを引き受け受けることができる。	全体を見渡しながらの仕事が苦手である。	集団の中で積極的に関わろうとする姿勢が見られない。